



| | |
|-------------|---|
| Title | 東京歯科大学広報 第314号 2024年09月30日発行 |
| Journal | 東京歯科大学広報(314) |
| URL | http://hdl.handle.net/10130/6576 |
| Right | |
| Description | |

東京歯科大学広報



第56回
全日本歯科学学生総合体育大会
総合第3位

第56回 全日本歯科学生総合体育大会開催

東京歯科大学 総合第3位に輝く！

第56回全日本歯科学生総合体育大会夏期部門（以下デンタル）が、2024年7月31日（水）～8月10日（土）の日程で、全国各地で開催された（総合主管校：大阪大学歯学部）。

本学からは、冬期部門とあわせて18部門に参加し、「総合第3位」という素晴らしい成績をおさめた。

▼ 総合成績

| 順位 | 大学名 | 得点 |
|----|-----------|--------|
| 1位 | 九州歯科大学 | 137.03 |
| 2位 | 日本大学歯学部 | 130.50 |
| 3位 | 東京歯科大学 | 102.03 |
| 4位 | 愛知学院大学歯学部 | 95.53 |
| 5位 | 広島大学歯学部 | 73.00 |

▼ 入賞部門

| 順位 | 部門 |
|-----|----------------------------|
| 優勝 | 硬式庭球部門・剣道部門 |
| 準優勝 | サッカー部門・バドミントン部門 ボウリング部門 |
| 第3位 | スキー部門 |
| 第4位 | 水泳部門 |
| 第5位 | バレーボール部門・柔道部門 |
| 第6位 | ソフトテニス部門・ゴルフ部門 |
| 第8位 | 卓球部門・陸上競技部門 |



▲第56回のポスター



【硬式庭球部】 今年は念願の男子優勝、女子3位、そして総合優勝することができました。チームのみんなが試合前の準備、応援をしてくれたおかげです。他のどの学校よりもチームとして完成していたと思います。チームメイトには感謝でいっぱいです。この代の主将でいれて誇らしく思います。なにより大きな事故や怪我もなく、デンタルを終えることができてよかったです。

(吉川和秀・第4学年)

参加した各部の主将に聞きました！

オールデンタルに参加して



【剣道部】 少人数ながら公式団体戦の部で優勝することができました。公式団体戦の部は2連覇することができたので、来年は前人未到の3連覇を目指したいと思います！優勝杯でカルピスソーダを飲むのが楽しみです。

(須澤透真・第4学年)

※新潟大学歯学部との合同チームとして出場

【サッカー部】 優勝こそ逃しましたが、チーム全員が一丸となって目標に向かい、全力を尽くすことができました！ご指導・応援してくださったすべての方に感謝申し上げます。

(塩川蓮人・第4学年)



【バドミントン部】 最後の最後まで全力でバドを頑張ってきた仲間にカー杯の拍手を送りたいです！この場を借りて改めて感謝を伝えたいです！皆ありがとう！！

(野並真樹・第4学年)

【ボウリング部】 今年のデンタルは1年間の練習の成果が発揮できたと自信をもって言える結果となりました。来年は総合優勝を目指してさらに頑張りたいと思います。

(井上宙翔・第3学年)



【スキー部】 今年は、北海道で開催され、女子総合優勝連覇を達成することができました。来年は長野県熊の湯スキー場にて、高みを目指し頑張ります！

(尾高寛樹・第4学年)



【水泳部】 主管として、記念すべき大会になったと思います。大会運営にご協力いただいたすべての方に感謝いたします。ありがとうございました。(宮坂慶眞・第4学年)



【柔道部】 新しい仲間とともに盛り上がった、楽しいデントルになりました! 来年度は良い結果を出せるように、部員一同努力し、楽しく活動していきたいと思ひます。(高橋鵬成・第5学年)



【ゴルフ部】 仲間と共に真剣にゴルフに向き合ったこの一年は一生の思い出です。今年の経験を生かし、来年はさらに高みを目指したいと思ひます。(黒沼凜香・第4学年)



【バレーボール部】 チーム全員が全力で取り組んで、熱くなれたデントルでした。悔しい結果となりましたが、忘れられない夏になりました。(佐藤天星・第4学年)
部員一丸となって臨めた楽しく熱い大会でした。今年の悔しさをバネに、来年こそ総合優勝を目指します。(矢嶋優・第3学年)



【ソフトテニス部】 大会を無事に終えることができ、また部員一丸となって戦えたことはとてもいい思い出になりました。(岡本大・第3学年)(浅野心・第3学年)



【卓球部】 長崎の暑い夏に、全部員でみんなの試合を応援し合い、チーム一丸となって激闘を繰り広げてきました! 他大学との交流も貴重なひと時でした。(風間健秀・第3学年)



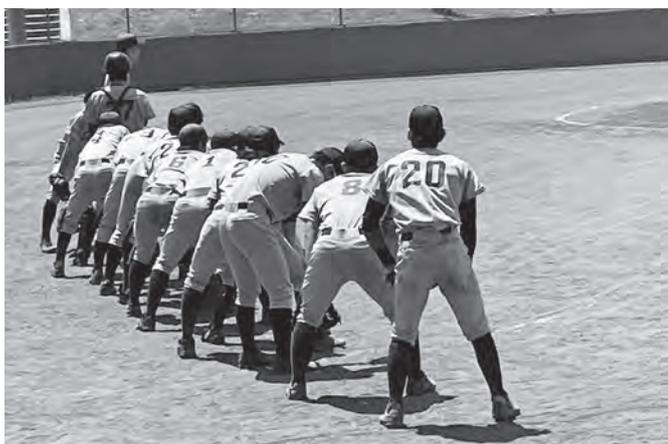
【陸上競技部】 いろいろな方々のご支援・ご協力があった大会を終えられたことに感謝申し上げます。皆が持つ力を出し切ることができたと思います！

(川田 龍・第4学年)



【硬式野球部】 最後まで厳しい練習についてきてくれたチームメイトには感謝しかありません！接戦を勝ちきれなかった今年の悔しさを来年のデンタルで晴らしたいと思います！

(丸山 竜太・第4学年)



【弓道部】 団体、個人共に部員一同全力を尽くしました！どの大学よりも射型がきれいだったことが何よりの誇りです！

(安藤 光貴・第4学年)



【バスケットボール部】 目標こそ達成できませんでしたが、チーム一丸となって最後まで戦うことができました。今年も最高のデンタルとなりました！お疲れ様でした！

(井野 晴斗・第3学年)

合同チームとは思えないような関係を築け、結果も残すことができ、忘れられない思い出になりました。

(山口 和奏・第3学年)



【ラグビー部】 初心者も多い中、最後は連勝して終わることができました。来年度は今年より上のベスト8以上を目指して練習に励みます。

(石川 智大・第6学年)



【フットサル部】 目標とする結果には届きませんでしたが、練習から自分たちで考え行動する事で人として成長する事が出来たと思います。また、他大学の学生との交流も深めることができ、いい機会となりました！

(方 孝仁・第4学年)



教授就任のご挨拶



市川総合病院内科学講座

瀬田 範行

2024年8月1日付で市川総合病院内科学講座教授を拝命いたしました。就任にあたり、井出吉信理事長、一戸達也学長、西田次郎市川総合病院長、選考委員の先生方には心より御礼を申し上げます。

私は1993年に順天堂大学医学部を卒業して、順天堂大学での内科研修を経て、当時橋本 博教授が主催していた順天堂大学膠原病内科に入局しました。順天堂大学膠原病内科は日本最古の膠原病内科学講座で、UCLAでの留学を含めてリウマチ・膠原病学の基礎を学びました。2005年に橋本教授が定年を迎えられたのを契機に、もともと共同研究で指導を受けていた桑名正隆先生（現日本医科大学アレルギー膠原病内科学分野大学院教授）からお誘いを頂き、のちに竹内 勤先生（現埼玉医科大学学長）が主催される慶應義塾大学リウマチ・膠原病内科でお世話になることになりました。慶應義塾大学リウマチ・膠原病内科は全国に多くの教授を輩出している伝統ある講座で、臨床と研究の両面で成長を実感できる日々を過ごしました。そして、ご縁があり2014年から東京歯科大学市川総合病院で勤務しております。

2024年10月で、市川総合病院にお世話になって10年になります。振り返ってみると、コメディカルの方も含めて、本当に多くの方々に支えられて過ごした10年間であったと実感しております。お世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れずに、これまで以上に東京歯科大学の発展のために努力する所存であります。今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

准教授就任のご挨拶



市川総合病院泌尿器科

萩生田 純

2024年6月1日付で市川総合病院泌尿器科准教授を拝命いたしました。井出吉信理事長、一戸達也学長、西田次郎市川総合病院長、選考委員会の先生方、泌尿器科の中川 健教授に深く感謝申し上げます。

私は2002年に慶應義塾大学医学部を卒業後、泌尿器科学教室に入局し、2年間の外科研修の後、慶應義塾大学病院や関連病院で研鑽を積みました。2009年から市川総合病院に赴任し、丸茂 健前教授、中川現教授の指導のもと、多くの皆様にサポートしていただき、泌尿器科診療に従事することができました。また当時、石川博通りプロダクションセンター長に誘われて男性不妊症の領域に足を踏み入れ、特定国立研究開発法人産業技術総合研究所で研究を行い、現在では私のライフワークの重要な一分野を占めるに至っております。

市川総合病院泌尿器科では一般的な泌尿器疾患の地域医療を担うとともに、腹腔鏡手術や泌尿器内視鏡手術、ロボット支援手術といった高度な低侵襲治療を提供してきました。また腎不全センターやリプロダクションセンターを通じて専門性の高い診療を行っており、今後も地域の中核病院として質・満足度の高い医療を提供していく所存です。

一方当院は教育機関としての側面もあり、歯科学生や歯科・医科研修医、専修医などの指導にも引き続き携わらせていただきます。

今後も東京歯科大学および市川総合病院の発展のため努力してまいりたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



市川総合病院整形外科

青山 龍馬

この度、2024年7月1日付で市川総合病院整形外科准教授を拝命いたしました。就任にあたりまして、井出吉信理事長、一戸達也学長、西田次郎市川総合病院院長、選考委員会の先生方に深く感謝申し上げます。

私は1999年慶應義塾大学医学部を卒業し、多くの慶應義塾大学医学部整形外科教室の関連病院にて臨床の研鑽を重ねてきました。2008年4月1日に市川総合病院の整形外科に赴任し、白石 建前教授のご指導のもと、独自開発の低侵襲脊椎手術（白石法）に関する研究を進めてまいりました。われわれの研究成果は、国際学会での発表や国際誌への投稿を通じて広く認められ、多くの患者さんに貢献できたと自負しております。

白石教授の退官後も、頸椎疾患の研究を続け、脊椎・脊髄病センターの発展に寄与してまいりました。現在は穴澤卯圭教授のご指導のもと、増加するがん患者の転移性脊椎腫瘍の治療にも注力し、センターの守備範囲を広げる努力を続けております。

また新しい時代への対応として、XR（拡張現実）技術や最新の外視鏡技術の導入を積極的に行い、AIやロボットの医療分野での活用にも注力していく所存です。当院は優秀なスタッフに恵まれており、今後も新時代に対応できる優れた人材の育成に努め、継続的な発展を目指してまいります。

これからも皆様と共にさらなる発展を目指して精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



市川総合病院形成外科

佐久間 恒

2024年7月1日付で市川総合病院形成外科准教授を拝命いたしました。井出吉信理事長、一戸達也学長、松井淳一副学長、西田次郎市川総合病院院長、選考委員会の先生方に深く感謝申し上げます。

私は1997年に慶應義塾大学医学部を卒業し、2年間の外科研修（一般外科・小児外科）の後、慶應義塾大学医学部形成外科学教室の関連病院で主にマイクロサージャリーを中心として日々研鑽に努めてきました。なかでも顔面神経麻痺に対する診療には特に力を入れており、田中一郎前教授のご指導のもと、陈旧性麻痺に対する神経血管柄付き多ベクトル薄層前鋸筋移植を開発し、国内および国際学会での発表や、国際誌への投稿により一定の評価をいただきました。

市川総合病院形成外科では、一般形成外科疾患に加えて、口腔がんセンター、皮膚科、整形外科（骨軟部腫瘍外科）、乳腺外科などの関連各診療科の先生方と連携しながら、悪性腫瘍切除後の再建にも力をいれています。優秀なスタッフらとともに質の高い診療を行っていくとともに、診療の柱の一つでもある顔面神経麻痺に対しては世界トップレベルの診療を継続すべく、新たな術式の開発を進め、科学的な検証を行っていく所存です。

また、歯科学生や歯科・医科研修医に対しては、臨床を通じて形成外科の基本的な手技や奥深さなどを伝えられるよう、引き続き指導に努めてまいります。

これからも東京歯科大学および市川総合病院の更なる発展のため、より一層励む所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

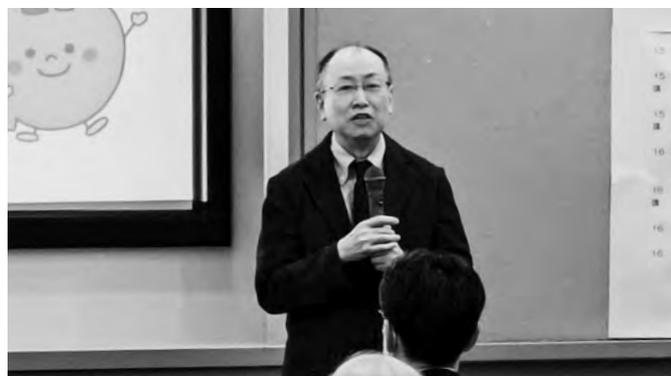
■ 市民のための健康講座開催

2024年5月18日（土）午後3時より、市川総合病院講堂において、市民を対象とした健康講座が開催された。「元気で生き生き過ごせるように！『心不全について知ろう！』～みんなで学べば怖くない～」と題し、各テーマそれぞれの専門分野から講演者を立て、実行委員長である大木貴博内科部長の司会進行のもと丁寧かつわかりやすい講演が行われた。130名を超える入場者からは高い関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われるなど、健康講座は盛会のうちに終了した。

科部長の司会進行のもと丁寧かつわかりやすい講演が行われた。130名を超える入場者からは高い関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われるなど、健康講座は盛会のうちに終了した。

1. 心不全ってなに？～正しく知って、上手に付き合おう～ …………… 眞野恵範(市川総合病院循環器内科・准教授)
2. 知ってほしい！心臓と運動のこと～筋力・体力はまだ育つ！～ …………… 小山修平(市川総合病院・理学療法士)
3. 心不全にならないために～日常生活の注意点～今日からできること！ …………… 三浦志乃(市川総合病院・看護師)

▲講演の演題と演者



▲挨拶をする西田次郎市川総合病院長



▲挨拶をする大木実行委員長



▲講演をする眞野准教授



▲講演をする小山理学療法士



◀講演をする三浦看護師

2024年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座開催

2024年5月25日（土）午後1時30分より、水道橋校舎本館12A講義室において、2024年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座が開催された。昨年と同様に東京歯科大学白菊会の総会と同日開催とし、白菊会会員および千代田区民の皆さまより多数の参加をいただいた。

当日は市川総合病院耳鼻咽喉科の飯村慈朗教授が「みみ・はな・のどに関する豆知識」と題して専門的な内容を患者目線に立ったわかりやすい内容で講演し、参加者から「大変わかりやすかった」「大変勉強になった」など多くの声をいただいた。



▲会場の様子



▲講演する飯村教授

第213回歯科医学教育セミナー開催

2024年5月27日（月）午後5時45分より、オンラインにて、第213回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「第117回歯科医師国家試験結果の分析」と題し、一戸達也学長より、今回の試験での出題内容や各試験分野の得点分

布、本学正答率の分析などに関する内容の説明が行われた。多くの参加者が集まり、試験結果の分析を行うことで今後の学生教育へと繋がる大変有意義なセミナーとなった。

2024年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

2024年5月28日（火）午後6時より、オンラインにて、2024年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「診療報酬改定について」と題し、水道橋病院診療録指導委員会幹事委員である五十嵐 治非常勤講師より、今回の改定におけるおもな施設基準の追加項目と見直し項目について、例をあげて説明があった。五十嵐非常勤講師は、「改定された点についてきちんと理解をして診療をしてほしい」と

述べた。

水道橋病院では、以前より診療録記載について診療録指導委員会幹事委員による医局員への診療録記載の指導が行われ、今年度も継続してより丁寧な指導が行われている。今回の研修会は、保険医のみならず、歯科医療に携わる水道橋病院のすべての教職員にとって大変有意義な内容となった。

■ 第317回東京歯科大学学会・例会開催

2024年6月1日（土）午前9時より、水道橋校舎新館において、第317回東京歯科大学学会・例会が開催された。

午前には口演12題が第1および第2講義室にて、示説20題が第3実習講義室を会場として各々発表された。午後は第2

講義室において病理学講座の明石良彦助教と歯科理工学講座の笠原正彰講師による学長奨励研究賞受賞講演が行われ、引き続き同会場において4教授による特別講演が行われた。また9商社による商品展示が第2講義室前ラウンジで行われた。

1. 変化の著しい社会の状況に対応する補綴治療 …………… 関根秀志教授(クラウンブリッジ補綴学講座)
2. オーラルメディシン・病院歯科学講座の果たすべき役割 …… 松浦信幸教授(オーラルメディシン・病院歯科学講座)
3. 食べる機能を治し支える老年歯科補綴学 …………… 上田貴之教授(老年歯科補綴学講座)
4. 矯正歯科治療が目標とするものとその進化 …………… 西井 康教授(歯科矯正学講座)

▲特別講演の演題と演者



▲講演をする関根教授



▲講演をする松浦教授



▲講演をする上田教授



▲講演をする西井教授

2024年度実験動物供養祭実施

2024年6月14日（金）午前11時30分より、水道橋校舎新館血協記念ホールにおいて、2024年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、一戸達也学長、大学幹部、大学関係者および歯学部第3学年学生が参列し、真珠院ご住職の読経に始まり、

一戸学長が祭文を奉読された。その後、歯科医学教育や研究にその生命を捧げた動物諸霊に対し深く哀悼と感謝の意を込め、教職員、歯学部第3学年学生代表が順次献花を行い、滞りなく終了した。



▲祭文を奉読する一戸学長



▲実験動物供養祭会場風景

第3回研修歯科医教育セミナー開催

2024年6月14日（金）午後6時より、千葉歯科医療センター講義室において、千葉歯科医療センターの研修歯科医、指導歯科医を対象とした第3回研修歯科医教育セミナーが開催された。今回は、昨年度の本セミナーで大変好評であった日本大学保存学教室修復学講座教授の宮崎真至先生を講師にお招きし、「審美性に富んだコンポジットレジン修復～臨床テクニックの実際～」と題した講演と実技指導が行われた。

講演では、症例を通しての審美歯科の理解として前歯部コ

ンポジットレジン修復の臨床および臼歯部コンポジットレジン修復の臨床、歯質接着システムの発展、ユニバーサルシェードのコンポジットレジン、ラバーダム法の重要性、前歯部修復の勘所などについてお話いただいた。また講義室での講演後、場所をチェアサイドに移し、レジン充填の実技指導をカメラ室のモニターに映しながら双方向の研修型式で行っていただいた。集まった研修歯科医や臨床研修主任指導者は、宮崎先生の実技に見入っていた。



▲講演をする宮崎先生



▲実技指導を行う宮崎先生

第28回試験問題作成に関するワークショップ開催

2024年6月15日（土）午前9時30分より、水道橋校舎新館第3実習講義室において、第28回試験問題作成に関するワークショップが開催された。本ワークショップは、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指し、定期的に行っている。ワークショップには12名の教員が参加した。

今回のワークショップはCBT問題作成のためのアドバンスコースであり、機構派遣講師による共用試験の概要説明および試験問題作成方法の解説が行われた。その後、参加者はグループに分かれて同一の問題をブラッシュアップし、発表を行うことで内容の比較検討を行った。最後に受講者全員に修了証が授与され、ワークショップは終了した。



▲ワークショップ講師による講演の様子



▲ワークショップの様子

第214回歯科医学教育セミナー開催

2024年6月19日（水）午後5時30分より、オンラインにて、第214回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「2022年度学長奨励教育助成課題の実施報告」と題し、以

下のとおり教育課題の実施報告が行われた。質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなった。

| 所属 | 代表者氏名 | 職名 | 教育課題 |
|-----------|-------|----|---|
| 組織・発生学 | 北村 啓 | 講師 | 顕微鏡実習における同時双方向性教育を実現するための新たなデバイス作製 |
| 口腔インプラント学 | 平野友基 | 講師 | 360度動画を応用した口腔インプラント学教育の効果について |
| 老年歯科補綴学 | 高野智史 | 講師 | 咬合と顎運動の教育をDX(Digital Transformation)するブラウザベースのデジタル総義歯モデルの開発 |
| 歯科放射線学 | 音成実佳 | 講師 | 「動画で学ぶ 歯科エックス線撮影」の動画作成 |

▲採択課題一覧

■ 2024年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

2024年6月25日（火）午後6時より、オンラインにて、2024年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「放射線診療に関する研修（適切な画像検査、画像診断を行うために）」と題して、放射線科の音成実佳医局長より、予約方法やオーダー方法、撮影時の注意点などについて説明があり、続いて検査の依頼方法や注意点について説明が

あった。また、検査目的やコメント欄について詳細に入力してほしい旨の説明がなされた。

今回の研修会では、放射線の安全利用について、教職員が正確に認識することで院内業務の円滑化に繋がる大変有意義な研修会となった。

■ 2024年度歴代学長・役職者の墓参

例年行われております歴代学長・役職者の墓参は、以下の日程で執り行われた。

【7月18日（木）】

- 血脇守之助先生 千葉県松戸市「八柱霊園」
（参列者：一戸達也学長、大学庶務課庶務係、秘書室）
- 福島秀策先生 千葉県松戸市「八柱霊園」
（参列者：一戸達也学長、大学庶務課庶務係、秘書室）
- 高木圭二郎先生 東京都新宿区「真英寺」
（参列者：一戸達也学長、大学庶務課庶務係、秘書室）
- 石川達也先生 東京都新宿区「養国寺」
（参列者：一戸達也学長、大学庶務課庶務係、秘書室）
- 高山紀齋先生 東京都杉並区「文殊院」
（参列者：一戸達也学長、大学庶務課庶務係、秘書室）
- 関根 弘先生 神奈川県横浜市「東戸塚霊園」
（参列者：一戸達也学長、大学庶務課庶務係、秘書室）



▲血脇先生の墓参を行う一戸学長

第4回研修歯科医教育セミナー開催

2024年7月23日（火）午後6時より、千葉歯科医療センター講義室において、千葉歯科医療センターの研修歯科医、指導歯科医を対象とした第4回研修歯科医教育セミナーが開催された。今回は、木村歯科医院院長の木村正人先生を講師にお迎えして「ジルコニアおよびプレスセラミックの適応症例とセメントを考える」と題した講演が行われた。

ゴールを「特徴を理解し、選択基準を明確にする」とこととして行われた講演では、歯冠補綴材料（2ケイ酸リチウムとジルコニア）の強度、色調再現性、仮着、透光性・透明性からのマテリアル選択とセメント（ビューティセム ベニアとスーパーボンド）の組成、重合様式、色調安定性の特徴による選択基準についてお話をいただいた。

また「歯科医師人生を楽しく過ごすためには」として、研修歯科医時代に経験した診療見学と症例発表が大変有益であり、なるべく多くの記録を取ること、拡大診療を心がけること、患者さんと正直に向き合うことを心がけて欲しいと話を



▲講演をする木村先生

まとめられた。

集まった研修歯科医や臨床研修主任指導者は熱心に講演に耳を傾けていた。

第215回歯科医学教育セミナー開催

2024年7月25日（木）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第215回歯科医学教育セミナーが開催された。今回はAmerican Academy of Oral MedicineのPresidentで1999年に本学を卒業された池田健太郎先生に「アメリカにおけるオーラルメディシンの臨床、教育、研究の現状」と題した講演をいただいた。

はじめに、アメリカと日本における歯科医療制度の共通点、相違点について説明があった。アメリカの歯学部が歯科医師養成課程として認められるためにはADA（American Dental Association）のCODA（Commission of Dental Accreditation）により認定されなければならないことが説明された。また、アメリカでの歯科医師免許制度、歯科研修制度、認定医などの研修制度について、具体例をまじえた説明があった。海外留学を目指す若手医局員からの質疑応答もあり、大変有意義なセミナーとなった。



▲講演をする池田先生

ウェルビーイングプロジェクト主催 Asian Rising Stars Symposium 2024開催

2024年7月27日（土）午後1時より、オンラインにて、Asian Rising Stars Symposium（ARSS）2024が開催された。ARSSは、アジア諸国の新進気鋭の若手研究者を招聘し、シンポジウムを開催することで、国際的に活躍できる若手・次世代研究者／歯科医師を育成するための取り組みである。そのため本シンポジウムでは、発表者はもとより、座長も若手から中堅の本学教育職員が担当する。ARSSはこれまで、2019年度と2021年度に「顎骨疾患プロジェクト」による主催で2回、2023年度以降は「ウェルビーイングプロジェクト」の主催で開催しており、今回で4回目の開催となった。また2019年度は海外から演者を招いて対面形式で開催されたが、2021年度以降は新型コロナウイルス感染症の流行によりオンライン開催に移行している。

シンポジウムの開催前には、発表者と座長による自己紹介が和やかなムードで行われた。そして一戸達也学長による開会の辞の後、研究成果の発表をしていただいた。研究発表の

内容は以下のとおりである。

またARSSでは、その分野のエキスパートによるKeynote Lectureを設けており、今回は北海道大学口腔健康科学講座予防歯科学教室教授の岩崎正則先生に「The importance of oral function in older adults from the viewpoint of healthy Longevity」と題した内容でご講演いただいた。

学部学生、大学院生、そして教育職員からなる総勢70名以上が参加し、専門性の異なる発表内容であるにも関わらず、すべての発表において活発な質疑応答が行われた。最後にウェルビーイングプロジェクトアドバイザーの山口 朗客員教授による閉会の辞で締めくくられた。

現在、国際共著論文の数が大学の研究力の指標となっているが、本シンポジウムの開催により、本学次世代研究者の国際化がさらに進み、国際共同研究の活性化に繋がることが期待される。

【海外演者】

- Dr. Bo Li (中国：四川大学)
Calvarial stem cells : guardians of cranial bone homeostasis and injury repair
- Dr. Lu Jia (中国：河北医科大学)
PDLSC-conditioned medium reduces root resorption in delayed replantation of avulsed teeth
- Dr. Wai Kan Andy Yeung (中国：香港大学)
Content evaluation of dental radiology videos on YouTube
- Dr. Jian-Na Cai (中国：滨州医科大学)
Inhibiting symbiotic bacterial-fungal interaction alters in vitro biofilm formation and its cariogenic potential

【本学演者】

- 小高研人講師(歯科放射線学講座)
The volumetric medical image for accurate and reliable guided dentistry
- 北村 啓講師(組織・発生学講座)
A Morphological approach to understanding swallowing mechanisms ~ The genioglossus muscle is the only muscle that attaches to the epiglottis ~

▲演者と研究発表内容

2024年度大学院新入生学外総合セミナー開催

2024年5月30日（木）から6月1日（土）の3日間、御殿場高原ホテル「時の栖」（静岡県）において、2024年度大学院新入生学外総合セミナーが行われた。

セミナーには、大学院新入生32名と齋藤 淳大学院研究科長、福田謙一大学院学生部長、澁川義幸大学院教務部長、病理学講座の松坂賢一教授、口腔インプラント学講座の佐々木穂高教授、有限会社オービタルエンジニアリングの山口耕司氏が

参加した。

初日は山口氏と松坂教授による講演があり、2日目の午前にはグループに分かれ、大学院新入生による英文論文に関する発表が行われた。午後は3日目のグループ発表に向けての討議が行われ、3日目の午前中にグループごとに発表が行われた。その後の閉校式では、英文発表の優秀者と、グループ発表における最優秀グループが表彰された。



◀集合写真

海外協定校の学生受け入れ

2024年7月1日（月）～5日（金）にイエテボリ大学歯学部（スウェーデン）より4名、7月8日（月）～12日（金）に台北医学大学（台湾）より5名、7月29日（月）～8月2日（金）に香港大学歯学部（香港）より5名の学生を受け入れた。

滞在期間中は、水道橋病院保存科、補綴科、歯科矯正科ならびに市川総合病院口腔外科、口腔がんセンターでの臨床見学を実施した。また、Elective Study Programでイエテボリ大学や台北医学大学を訪問した本学学生との学生交流や、臨床実習中の第5学年とのランチタイムを利用した学生交流に

加え、一戸達也学長への表敬訪問と共に学長ランチ会を初めての試みとして実施した。

香港大学学生とのランチ学生交流に参加した原田優佑さん（第5学年）からは、「はじめて海外の歯学部の学生と交流することができて、本当に貴重な体験ができたと思いました。治療の流れやその治療で用いる器具が香港でも共通していることが多く、同じ歯科の勉強の話で盛り上がり、歯科医療の視野が日本のみならず世界に広がるいい機会になりました」との感想があった。



▲イエテボリ大学の学生による学長表敬訪問の様子



▲台北医学大学の学生と林 士凱先生（左：本学同窓、台北医学大学教員）



◀香港大学の学生による学長表敬訪問の様子

長期海外出張報告

歯内療法学講座 講師 山田雅司

この度、2023年6月4日（日）から2024年5月31日（金）まで、カナダのオンタリオ州トロントにあるトロント大学歯学部（University of Toronto Faculty of Dentistry）に長期海外出張させていただきましたので、その概要についてご報告させていただきます。

カナダというと、多くの方は1年中涼しい、もしくは寒いイメージがあるかと思いますが、オンタリオ州トロントはカナダの中では珍しく四季が存在します。しかし日本とは異なり、春と秋は非常に短いです。自身の留学期間中は、世界的な異常気象もあり、夏は30度を超える日が続いたものの、冬は氷点下20度を超える日は少なく、比較的暖かく過ごしやすい気候でした。トロントはカナダでも近代的な大都市で、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、電子マネー化が日本よりも発達しており、路上のホットドッグ屋台ですら対応していました。非常に便利で、私も滞在中にほぼ現金を使用したことはありませんでした。トロントは近代都市ですが、非常に古く趣のあるビルが多く、その街並みはよくアメリカのニューヨークと比較されることが多いようです。法律により古い建築物を保存しないとイケないそうで、外装は昔のままですが内部をリニューアルして使用しており、街中は常にどこかで建築物の補修工事中でした。カナダの公用語は英語とフランス語ですが、トロントは英語が主でした。しかし非常に多種にわたる人種が混在しており、街中ではいろいろな言葉が飛び交っていました。現在はインド系がもっとも多く、その次に中国系が多いとのことでした。またスポーツ観戦が非常に人気であり、特にアイスホッケーと野球は人気があり、

大谷翔平選手もトロントでは大人気でした。

留学したトロント大学は多くのノーベル賞受賞者を輩出しており、インスリンの発見で有名なFrederick Grant Banting先生も卒業生です。トロント大学は、キャンパスがSt. George、Scarborough、Mississaugaの3つに分かれています。医学部のキャンパスは非常にきれいで新しいですが、歯学部はSt. Georgeキャンパスの外れに位置して、比較的小さい古い校舎です。トロント大学歯学部は、カナダに存在する10校のうち最大の歯科大学で、元々は王立でかなり古くから存在し、現在は州立の大学です。1学年は約100人弱で4学年制でした。日本とは異なり、まずは大学の他の学部在籍し、成績が優秀な者に受験資格が与えられ、学士編入できるという狭き門です。カナダは州によって異なりますが、大学が立地するオンタリオ州の歯科は基本的にすべて自費診療ということから、卒業後はその地位と収入が確保されているため、入学が難しいのも納得できます。歯学部にはさまざまな国籍の学生、ドクター、研究者が在籍していましたが、残念ながら日本人は在籍していませんでした。興味深いことに、トロント大学歯学部では卓球が人気のようです。暇があれば、設置された卓球台でドクターや研究者、学生と一緒に楽しんでいました。

キャンパスは歯科病院とさまざまな研究室があり、その中にイメージング施設のCollaborative Advanced Microscopy Laboratories of Dentistry (Camilod)が存在し、多岐にわたる顕微鏡を有することが特色です。私はその中の研究室の1つであるMatrix dynamic groupに所属し



▲トロント市内の街並み



▲ McCulloch 教授と筆者



▲トロント大学歯学部の外観

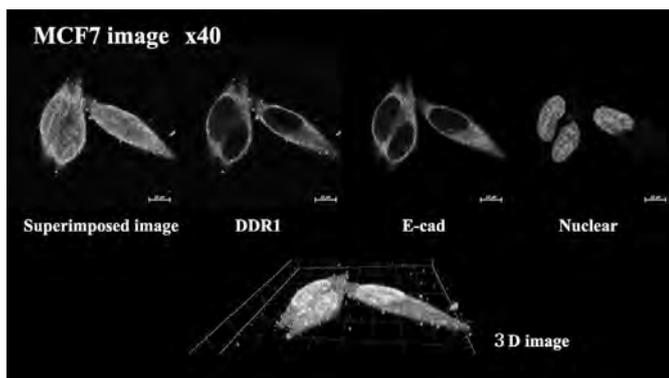
て、Christopher McCulloch教授に師事いたしました。Matrix dynamic groupの主な研究内容は、歯周組織と心臓の結合組織を制御するシグナル伝達系の研究でした。Christopher教授は過去に歯周病学専門医として開業されていた経歴もあり、研究の最終目標は歯周組織と心臓組織に関与する線維性疾患に対する新しい治療法を確立することでした。研究室には現在6人の研究者が在籍しており、そのうちの4名が中国出身で、その他イギリスとロシアからの研究員が数チームに分かれて研究に励んでいました。私は、Christopher教授とIsabel Ding先生を指導医とし、3人でチームを組んで研究を行いました。チームに与えられた課題は、細胞膜に存在するチロシンキナーゼであるDDR1とE-カドヘリンの相互作用と、細胞間接着への関係性を調査することでした。DDR1は、いくつかの異なる臓器の線維化病変や、細胞外マトリックスのプロセッシングとリモデリングの障害が現れる特定の癌に強く関与しています。最近のデータは、DDR1がコラーゲン受容体として機能するだけでなく、細胞間接着に関連するコラーゲン非依存的な機能も示す可能性を示しており、E-カドヘリンを介した細胞間接着に関与している可能性があることから、DDR1が癌発生における上皮細胞から間葉細胞への上皮間葉転換の初期段階において役割を果たしている可能性について検討を行いました。DDR1を特異的に多く有する乳がん細胞株のMCF7細胞を用いて、各種基質の存在下で細胞間接着が経時的にどのような反応を示すかを、免疫蛍光染色を行って共焦点顕微鏡で形態的観察

を行い、ウェスタンブロット法を用いてその発現蛋白を検出した結果、特定の基質によってDDR1が活性化するとE-カドヘリンが減弱する可能性が示唆されました。この研究成果については今後学会発表および論文投稿を目指しております。DDR1の起炎性物質による反応は、根尖周囲組織の破壊や再生にも関与が期待できる可能性があるため、今後も継続してトロント大学歯学部と共同研究を行っていく予定です。

また研究以外にも、学会への参加（Canadian Connective Tissue Society meeting, June 14-16, 2024）や、私の専門分野である歯内療法学分野の研修プログラムや外来見学させていただいたり、同講座の数日間にわたる研修プログラム（Success in Evidence Based Endodontics: A Comprehensive Review Course）に参加して講義と実習を受講し、新たな臨床技術と知識を習得することもできました。

本留学を通じて、新しい分野の研究を行うことで新たな知見を得ることができ、加えて私の専門分野への見識も深まり、非常に有意義な海外生活を過ごさせていただくことができました。今回の長期海外出張での経験を活用して、少しでも本学の発展に還元させていただき所存でございます。

最後に、このような機会の許可をくださった井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、新谷誠康国際交流部長に感謝申し上げます。また、長期出張中に多大なご尽力を賜りました歯内療法学講座の古澤成博教授と講座員、保存科のスタッフの方々、長期海外出張に関わっていただいたすべての皆様に、重ねて厚く御礼を申し上げます。



▲ DDR1 と E-cadherin の共焦点レーザー顕微鏡画像(×40)



▲ Matrix dynamic group のメンバーと筆者



▲ トロント大学歯学部の歯内療法外来の様子



▲ 歯内療法学分野 Pavel Cherkas 講師と筆者



▲ 歯内療法セミナーの様子

長期海外出張報告

歯科麻酔学講座 准教授 小鹿恭太郎

2023年4月から2024年3月までの1年間、University of California, Los Angeles (UCLA) での研究に参加するため、アメリカ合衆国ロサンゼルスに長期出張させていただきましたのでご報告いたします。UCLAはロサンゼルス西部に位置し、これまでも本学から多くの諸先輩方が留学された歴史ある大学です。私は歯学部のLaboratory of Neuropharmacologyに所属し、Igor Spigelman教授のもと、学生教育と研究に携わらせていただきました。

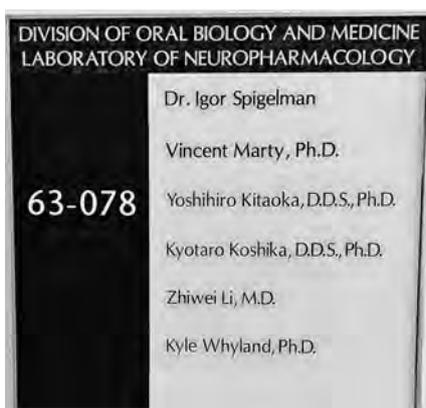
教育では、Spigelman教授の講義に同行し、歯学部1、2年生への講義に参加いたしました。講義スタイルは一見すると日本と変わりませんが、何度も参加しているうちに日本との違いが見えてきました。①講義には出欠席の確認はない、②その講義を聞きたい学生だけが参加するため、講義中に寝ている学生は1人もいない（本当に1人もいません）、③学生たちは講義中に教授の話を超えてでも活発に挙手をして質問をする（「それ、さっき教授が話してたよね」というような内容でも恥じることなく堂々と質問します）、④飲食をしながら授業を聞いている学生が多い（朝食を食べながら聞いている学生もいます）、⑤服装が自由であり、帽子やフードをかぶっている学生が散見される、⑥毎回講義の最後に学生から拍手が起こる、などです。学生が受け身ではなく、あ

ような熱量をもって講義に参加するようになるためには、双方向の講義を意識して行うことが重要であると再確認いたしました。また、我々のラボでは6名の学生が毎日講義の合間に研究を行っていたため、それらの学生に研究の指導を行いました。日本からは朝日大学と明海大学の歯学部の学生がElective Studyで来校しており、交流しました。

研究では、マウスを用いて「末梢性カンナビノイド受容体に局限して作用するカンナビノイドによる疼痛の抑制効果とそのメカニズム」の解明を行いました。カンナビノイドとは大麻草に含まれる成分であり、本研究の内容は「副作用がなく、鎮痛作用のみを持つ医療用大麻の開発」ということとなります。カンナビノイドが作用する受容体にはタイプ1（CB1R）とタイプ2（CB2R）があります。これらの受容体は全身に分布していますが、中枢（脳や脊髄）のCB1Rにカンナビノイドが作用すると陶酔感、記憶障害、起立性低血圧、薬物依存などのさまざまな副作用が生じてしまいます。この副作用があるため、これまで多くの国では大麻の使用が禁止されてきました。つまり、中枢のCB1Rには作用せず末梢のCB1Rにだけ作用するカンナビノイドを合成できれば、それは副作用がなく鎮痛作用だけを持つ医療用大麻ということになります。そこで我々のラボでは血液脳関門を通過せず



▲ UCLA の Royce Hall



▲ラボのメンバー表



▲ Spigelman 教授と実験中の様子



▲歯学部の講義風景



▲小児歯科外来での日帰り全身麻酔の様子



▲ Igor ラボの皆さんと

に末梢の受容体のみ作用するカンナビノイド (PrNMI) を合成し、私はこのPrNMIを用いて実験を行いました。その結果、PrNMIは十分な鎮痛作用を示しましたが、まだ若干の副作用が生じることがわかりました。そこで、PrNMIにさらに改良を加えて、人間に使用できる副作用のない医療用大麻を創薬する研究が、10億円以上の公的資金を獲得して5年計画で始まりました。近い将来、癌性疼痛に使用する薬剤が大きく変わるかもしれません。奇しくも、日本でも昨年12月に大麻取締法が改正されました。これからの鎮痛薬の主役になり得るカンナビノイドについて、今後もIgor教授と相談しながら研究を続けていきたいと考えております。

臨床では、歯科麻酔科のChristine Quinn教授のもと、歯科麻酔の臨床を見学させていただきました。小児歯科外来での日帰り全身麻酔、口腔外科の全身麻酔下手術、精神鎮静法下の歯科治療を見学しましたが、日本とは薬剤の使用法や気道管理方法が異なっており、大変参考になりました。制度の違いなどの問題によりすべてを日本で取り入れることは困難ですが、これまでに見たことのない麻酔方法を見学することで、自分の臨床の幅が広がりました。

この1年間を通して、何事にも代え難い貴重な経験をすることができました。これまでロサンゼルスに一度も行ったことがなく、何のツテもなく、英語も話せないという状況のなか、不安いっぱいでも一人ロサンゼルス国際空港に降り立った日が、遠い昔のように懐かしく思い出されます。言葉や文化、研究などすべてを一から吸収することに毎日必死で、でもそれが新鮮で楽しい1年でした。また、異文化の中で生活することで自分の世界が広がるとともに、日本の良さ（一部

悪さも）を改めて知る1年でもありました。もちろんいいことばかりではなく、言語・文化の違いや物価の違いにより大変なこともありました。素晴らしい出会いに恵まれたことで、大きな問題もなく1年間を過ごすことができました。この留学のきっかけを作ってくださったUCLA, Oral and Systemic Health Sciences教授のIchiro Nishimura先生、小さいラボでしたが家族のような雰囲気でもて迎えてくれたIgorラボの皆さん、西森組（南カリフォルニアに留学している日本人歯科医師の勉強会）のメンバー、UCLAに留学中の皆さん、歯科麻酔科のQuinn教授、何度もホームパーティーに呼んでくださったDr. Meera Pratap、歯科技工士のTomomi Babaさん、その他出会ったすべての方々に感謝いたします。また、日本からもたくさんの方々が遊びに来てくださいました。異国の地で気心知れた方々とお会いできたことは嬉しいものでした。遠路はるばる来てくださった皆様に御礼申し上げます。

そして、今回このような貴重な機会を与えてくださった井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、新谷誠康国際交流部長ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。加えて私の不在中にさまざまな面で支えていただいた歯科麻酔学講座医局員をはじめ関係各所の方々に重ねて御礼申し上げます。

最後に、息子の中学受験という大変な時期に送り出してくれた家族、そしてサポートしてくれた両親に感謝いたします。多くの方々の支えなしには、この1年間の貴重な経験はできなかったと痛感しております。これからも驕ることなく、この経験を糧にして日々精進していく所存です。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



▲西森組の講演会後の集合写真



▲ Dr. Pratap のホームパーティー



▲遊びに来てくれた歯科麻酔学講座の姜、関、矢島大学院生と Spigelman 教授



▶大学の同級生と
いつの時代も UCLA と
いえばココ!
(広報誌 310 号参照)



▲サンフランシスコでの学会発表後に市川総合病院緩和ケア科の小板橋俊哉教授と

山本 圭助教 第35回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会にて優秀症例報告賞を受賞

2024年7月30日（水）から8月1日（木）に、新潟大学医学部有壬記念館（新潟市）において開催された第35回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会にて、水道橋病院臨床検査科の山本 圭助教が「唾液腺腫瘍の一例」の演題で優秀症例報告賞を受賞した。

本発表は、発表時間10分、質疑応答5分の口頭発表であり、下顎右側第三大臼歯部の舌側粘膜に生じた唾液腺腫瘍に関する報告であった。病理組織学的に、弱拡大では分葉状に増殖する腫瘍胞巣が観察され、強拡大では短紡錘形から類円形の腫瘍細胞が充実性に増殖する像が観察された。良性または悪性の唾液腺腫瘍や転移性病変などを疑ったが、判定が難しく、免疫組織化学的染色および遺伝子検査、コンサルテーションにより、最終的に低悪性の基底細胞腺癌と診断した症例を報告した。会場からは、粘表皮癌や腺様嚢胞癌との鑑別をどのように行ったのかなどの質問があり、活発な討論が行



▲受賞した山本助教（左）と病理学講座の松坂賢一教授

われた。

本学会で得た知識および経験を今後の診断業務に活かすことを期待したい。

■ 第3学年の渡部洋己さん ロボカップジャパンオープン2024で優勝

2024年4月26日（金）から29日（月）に滋賀ダイハツアリーナ（大津市）で開催されたロボカップジャパンオープン2024にて、第3学年の渡部洋己さんが参加する東京大学松尾・岩澤研究室のロボティクスグループ「TRAIL」が@Home LeagueのDomestic Standard Platform League（DSPL）に出場し、優勝した。本競技は、人と共同作業を行う自律型ロボットが、キッチンやリビングルームなどの家庭環境を模したコートにおいてさまざまな課題に取り組み、その達成度を競うものである。人とコミュニケーションをとり

ながら、日々の暮らしにより役立つ仕事ができるようなロボットの実現を目指している。

世界大会は、7月17日（水）～21日（日）の日程にて、オランダ・アイントフォーヘンで開かれ、同チームは見事、部門4位という結果をおさめた。日本を代表するチームの一員として参加した渡部さんからは「ロボットを未知の環境で動かす中で、想定とは異なりうまくいかないこともあり、その対処の重要性を実感した。世界大会での経験を今後に生かしていきたい。」との感想があった。



▲リビングを模したコートで、ロボットが床に落ちているものを片付けている様子



▲世界大会では荷物を持ち、人についていく競技に出場

■ 2024年度父兄会定時総会開催

2024年6月22日（土）午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、2024年度父兄会定時総会が開催された。

一戸達也学長をはじめとする大学役職者ならびに修学指導関係者の諸先生方をお迎えし、吉村浩一父兄会長からのご挨拶の後、佐野勇基氏を議長に選出し、議案書に従い審議を進行した。200名を超える保護者の方の参加があった。



▶父兄会総会の様子

第56回全日本歯科学学生総合体育大会結団式開催

2024年7月17日（水）午後6時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、第56回全日本歯科学学生総合体育大会結団式が開催された。

一戸達也学長の挨拶の後、スキー部主将の尾高寛樹さん

（第4学年）による運動部代表挨拶、フットサル部主将の方孝仁さん（第4学年）による選手宣誓と続き、司会の澤部圭佑さん（第4学年）による紹介のもと、各クラブ主将が決意表明を行った。



▶結団式の様子



▲運動部代表挨拶をする尾高さん



▲選手宣誓をする方さん



▲各主将からの挨拶



▲どの部活も熱く気合が入る

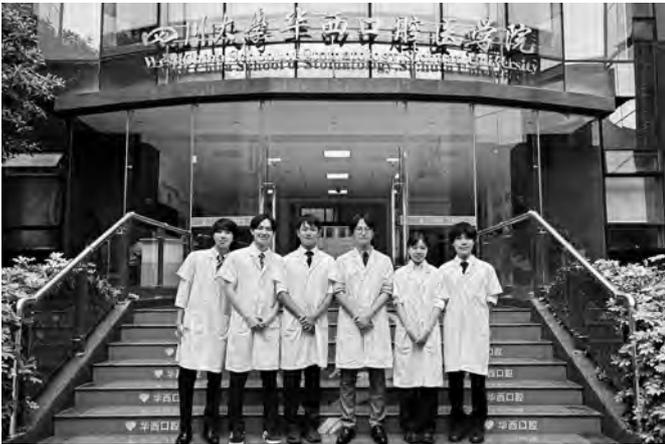
国際医療研究会が四川大学華西口腔医学院を訪問

2024年8月15日（木）から16日（金）の2日間、本学国際医療研究会に所属する本学第3学年の学生5名（代表：大導寺澄、石川皓裕、河原光貴、佐藤巧実、大徳敏也）と、引率教員として生理学講座の黄地健仁講師が、四川大学華西口腔医学院（中国・成都）を訪問した。新型コロナウイルス感染症の影響により国際医療研究会所属の学生たちがスタディーツアーで海外渡航をするのは、2019年に開催したミャンマー以来5年ぶりの実施である。

華西口腔医学院では、東京歯科大学一行を招待したJie-Fei Shen教授を表敬訪問した。また、保存科や補綴科などの歯科外来に加え、唇顎口蓋裂の外来見学や口腔疾病防治全国重点実験室（State Key Laboratory of Oral Diseases）、

バーチャルシミュレーション技能訓練実験センターや博物館といった複数の学内施設見学を行った。博物館には、本学初代学長の奥村鶴吉先生の写真が展示されており、本学が中国の歯科界に大きな影響を与えていたことを伺い知ることができた。加えて、華西口腔医学院元院長のXuedong Zhou教授と病理学講座主任教授のYu Chen教授にも面会することができ、学生たちにとって大変刺激の多い滞在となった。

華西口腔医学院とは、インプラント学のQuan Yuan教授、歯内療法学のYi Fan教授、矯正歯科学のBo Li講師と黄地講師が共同研究を実施しているが、今回の学生訪問をきっかけに学生間の交流が今後期待できる有意義な訪問となった。



▲四川大学華西口腔医学院前で



▲Shen 教授表敬訪問時の様子



▲バーチャルシミュレーション技能訓練実験センター見学時の様子



▲Chen 教授（中央左）と Zhou 教授（中央右）との集合写真

■ 春の文献検索講習会開催

2024年4月24日（水）から5月10日（金）および5月28日（火）と6月4日（火）、オンラインにて、文献検索講習会を開催した。

1コマあたり60分程度の内容で、医学分野では必須のデータベース「PubMed」と「医中誌Web」の基本的な使い方、文献の検索方法、用語の解説を演習も交えて行った。「Scopus」では、引用データベースとしての仕組みや、論

文や雑誌評価指数の解説、ハゲタカジャーナルの注意喚起などを行った。「学認」では、図書館で提供している電子リソース（データベースや電子ジャーナル）を学外から利用する方法を説明した。

全日程で開催科目数8コマ、のべ92名の参加があり、アンケートでは「理解しやすかった」「とても詳しい説明でよくわかった」といった回答が集まり、好評を得た結果となった。

■ 卒業アルバム寄贈のお願い

図書館では東京歯科大学とその前身である東京歯科医学専門学校時代からの卒業アルバムを所蔵しています。一部、未所蔵の年次がありますので、お持ちの方は寄贈をご検討ください。卒業アルバムは水道橋校舎新館図書館にて利用可能（館内閲覧限定）です。

所蔵している卒業アルバムは図書館ホームページから確認できます。

図書館ホームページ➡左メニュー「資料を探す」➡「学位論文 / 卒業論文 / 卒業アルバム」

【未所蔵の年次】

| | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 第74回 1969(昭和44)年 3月卒(福社会) | 第44回 1939(昭和14)年 3月卒(天心会) |
| 第59回 1954(昭和29)年 3月卒(二期会) | 第31回 1926(大正15・昭和元)年 3月卒(壬戌会) |
| 第56回 1951(昭和26)年 3月卒(いそむ会) | 第30回 1925(大正14)年 3月卒(十年会) |
| 第49回 1943(昭和18)年 9月卒(二六会) | 第16回 1910(明治43)年 11月卒 |
| 第47回 1941(昭和16)年 12月卒(堅久会) | 第15回 1909(明治42)年 12月卒 |

2024年度東京歯科大学短期大学 第1回および第2回オープンキャンパス・入試説明会開催

2025年度東京歯科大学短期大学への入学希望者を対象としたオープンキャンパス・入試説明会が、2024年6月9日（日）に第1回、7月13日（土）に第2回が、水道橋校舎本館A教室において開催された。学生と保護者数を合わせた参加者は、第1回目が117名、第2回が100名であった。

当日は、鳥山佳則短期大学学長の挨拶から始まり、菅野亜紀短期大学教務部長より短期大学の特徴、特に臨床・臨地実習に関する説明、また小林友忠短期大学事務部長より学生募集要項、入学試験についての説明が行われた。

休憩をはさみ、総合型選抜試験対策として、古澤成博短期大学学生部長による模擬授業を聴講して例題に解答する形式で、入学試験の体験が行われた。参加者は緊張した面持ちで一糸懸命聴講し、例題に取り組んでいた。

続いて実際の学生生活などを理解しやすくする試みとして、卒業生、在校生による座談会がシンポジウム形式で行われた。3年間の在学中の話、専攻科への進学について考えた

こと、卒業後歯科衛生士としてどのように過ごしているかなど、経験者だからこそその声を参加者に伝えた。参加者も目を輝かせて熱心に聞き入っていた。

その後、短期大学教員や専攻科生と共に小グループに分かれて、水道橋校舎本館短期大学実験室および教室、水道橋病院診療室、水道橋校舎本館西棟短期大学実習室のルートで施設見学を行った。途中の実習室、実験室や診療室に、短期大学教員および短期大学学生を配置し、適宜説明が行われた。短期大学実験室では、窓越しの眺めのよさに目を奪われている様子であった。また実習室では、相互実習に使用する診療台の設備に驚いている様子がうかがえた。

施設見学終了後は、水道橋校舎本館西棟ラウンジにおいて希望者に対して個別相談が行われた。相談内容は、入学試験、学生生活、専攻科への進学、学費・奨学金、授業内容、就職先など多岐にわたり、教職員および卒業生、短期大学学生が対応にあたった。



▲古澤短期大学学生部長による模擬授業



▲短期大学在学学生（2、3年）、専攻科生、専攻科修了者によるシンポジウム

施設見学

水道橋校舎・水道橋病院

■医療法人至誠会 たんぼぼ歯科医院

対象日：2024年5月16日(木)午前中

見学施設：標本室

見学者：5名

■太陽歯科衛生士専門学校

対象日：①2024年7月23日(火)10:00～12:00

②2024年7月30日(火)14:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：①84名(引率者2名)、②45名(引率者2名)

■学校法人村上学園 専門学校日本医科学大学校

対象日：2024年7月24日(水)14:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：90名(引率者10名)

■茨城歯科専門学校

対象日：2024年7月24日(水)10:00～12:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：45名(引率者6名程度)

■埼玉県立常盤高等学校

対象日：2024年7月25日(木)10:00～12:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：77名(引率者4名程度)

■国際医療福祉専門学校

対象日：2024年7月26日(金)10:00～12:00、14:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：77名(引率者6名)

市川総合病院

■ツカザキ病院

対象日：2024年5月13日(月)

見学施設：第二部手術室、外来、病棟

見学者：眼科医1名

■独立行政法人 国立病院機構埼玉病院

対象日：2024年5月20日(月)

見学施設：第二部手術室、外来、病棟、角膜センター

見学者：眼科医1名

■独立行政法人 国立病院機構埼玉病院

対象日：2024年5月13日(月)～3か月間(月・火・水)

見学施設：外来、病棟

見学者：眼科医1名

■株式会社アルム

対象日：2024年7月12日(金)

見学施設：外来、病棟、羊膜バンク

見学者：医師3名

■日本歯科衛生士会

対象日：2024年7月29日(月)

見学施設：歯科病棟、口腔がんセンター

見学者：歯科衛生士5名

千葉歯科医療センター

■医療法人至誠会 たんぼぼ歯科

対象日：2024年7月5日(金)10:00～11:30

見学者：7名

海外出張

水道橋校舎・水道橋病院

■南慶一郎非常勤講師(水病・眼科)

The Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) 2024 への参加・発表のため、5月5日(日)から5月11日(土)までアメリカ合衆国・シアトルへ出張。

■笠原清弘准教授(口腔病態外科)

顎矯正手術で用いる新規骨接合材料の製造過程の視察のため、5月5日(日)から5月6日(月)まで韓国・ソウルへ出張。

■牧野将大大学院生(口腔インプラント)

ITI World Symposium への参加のため、5月8日(水)から5月12日(日)までシンガポールへ出張。

■齋藤 淳教授(歯周病)

Dental Services for Vulnerable Populations セミナーでの講演のため、5月28日(火)から5月31日(金)までスイス・ジュネーブへ出張。

■ピッセン弘子特任教授(水病・眼科)

第36回アジア太平洋白内障屈折矯正手術学会への参加のため、5月30日(木)から6月2日(日)まで中国・成都市へ出張。

■星野照秀助教(口腔病態外科)

Goethe Symposium への参加、発表のため、6月2日(日)から6月6日(木)までドイツ・フランクフルトへ出張。

■山本楓華大学院生(歯科矯正)

ヨーロッパ矯正歯科学会への参加・発表のため、6月8日(土)から6月13日(木)までギリシャ・アテネへ出張。

■三宅 麗大学院生、酒井菜緒大学院生、左 原美大学院生、
(歯科矯正学)

ヨーロッパ矯正歯科学会への参加・発表のため、6月8日(土)から6月14日(金)までギリシャ・アテネへ出張。

■佐藤仁美助教(歯科放射線)

The 14th ACOMFR への参加、発表のため、6月12日(水)から6月16日(日)まで台湾・高雄へ出張。

■石塚洋一准教授(衛生)

The 71st European Organisation for Caries Research (ORCA) Congress の参加・発表のため、6月30日(日)から7月7日(日)までギリシャ・イラクリオンへ出張。

■中島一憲教授(口腔健康科学(スポーツ))

2024 Korean Academy of Sports Dentistry Annual Conference での講演のため、7月5日(金)から7月8日(月)まで韓国・ソウルへ出張。

■立木千恵講師(歯科矯正)

2024年度既卒 Elective Study Program の引率のため、7月21日(日)から7月27日(土)までアメリカ合衆国・ロサンゼルスへ出張。

市川総合病院

■山口剛史教授(眼科)、笠松広嗣助教(眼科)

ARVO 2024 Annual Meeting へ参加のため、5月4日(土)～5月11日(土)までアメリカ・シアトルへ出張

■鈴木 昌教授(救急科)

米国救急医学会 SAEM24 へ参加のため、5月14日(火)～5月18日(土)まで、アメリカ・フェニックスへ出張

■井上仁人教授(心臓血管外科)

72nd Congress of the ESCVS へ参加のため、5月23日(木)～5月28日(火)まで、トルコ・イスタンブールへ出張

■山口剛史教授(眼科)

大連医科大学での講演のため、5月24日(金)～5月27日(月)まで、中国・大連へ出張

■山本雅絵講師(歯科・口腔外科)

4th Joint Japanese-German CMF Convention 74th Congress & Practice Management Seminar of the DGZMK+ Garman Dentist's Day2024 へ参加のため、6月2日(日)～6月7日(金)まで、ドイツ・フランクフルトへ出張

■松本将吾助教(整形外科)

第39回ヨーロッパ頸椎外科学会へ参加のため、6月4日(火)～6月9日(日)まで、オーストリア・ウィーンへ出張

■柴田 護教授(神経内科)

The American Headache Society's 66th Annual Scientific Meeting へ参加のため、6月12日(水)～6月17日(月)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張

■鈴木 昌教授(救急科)

国際救急医学会 ICEM2024 へ参加のため、6月19日(水)～6月20日(木)まで、台湾・台北へ出張

■長谷川博俊教授(外科)

ACPGBI(英国大腸肛門病学会)へ参加のため、6月30日(日)～7月5日(金)まで、イギリス・ウエールズへ出張

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

米中肺がん国際フォーラム(集学的治療フォーラム)へ招待参加のため、7月4日(木)～7月6日(土)まで、中国・北京へ出張

■飯村慈朗教授(耳鼻咽喉科)

KAFPRS 2024 へ参加のため、7月20日(土)～7月21日(日)まで、韓国・ソウルへ出張

2024年6月

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|--|---|--|
| 1 | 土 | 第317回東京歯科大学学会・例会 | | |
| 2 | 日 | | | |
| 3 | 月 | | | 臨床研修管理小部会 医療連携委員会 |
| 4 | 火 | 水病令和6年度医療法第25条第1項の規定に基づく 立入検査 水病感染予防対策チーム委員会 | 緩和ケア委員会 | リスクマネージャー部会 ICT部会 |
| 5 | 水 | 水病薬事委員会 | 虐待・DV対応委員会 臨床検査運営委員会 | |
| 6 | 木 | | 感染制御委員会 プログラム委員会 | 診療録指導委員会 |
| 7 | 金 | 短大水道橋病院臨床実習小委員会 | こどもサポートチーム運営会議 | |
| 8 | 土 | | | |
| 9 | 日 | 短大オープンキャンパス・入試説明会 | | |
| 10 | 月 | | | 千葉歯科医療センター医局長会 |
| 11 | 火 | 臨床教授連絡会、講座主任教授会 水病給食委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 12 | 水 | 大学院運営委員会、大学院研究科委員会 第3回図書館事務連絡会、水病リスクマネジメント部会 | 救急委員会 ICU運営委員会 | |
| 13 | 木 | 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 | 前期健康診断(~6/15) 患者サービス向上委員会 | |
| 14 | 金 | 実験動物供養祭 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会 | | 研修歯科医教育セミナー |
| 15 | 土 | | | |
| 16 | 日 | | | |
| 17 | 月 | 教職員健康診断(男性) | 前期健康診断(~6/19) 医療安全管理委員会 | 千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会 薬事委員会(メール会議) |
| 18 | 火 | 教職員健康診断(女性) 水病褥瘡対策委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 19 | 水 | 教職員健康診断(男性) | 診療材料検討委員会 | 業務連絡会 |
| 20 | 木 | 教職員健康診断(女性)、TDCビル協議会 短大教授会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 | 部長会 労務管理担当マネージャー会議 手術室運営委員会 衛生委員会 説明と同意の質向上委員会 | |
| 21 | 金 | 教職員健康診断(男女混合) 第175回倫理審査委員会・第116回利益相反委員会 | 羊膜バンク運営委員会 NSTカンファレンス 業務改善委員会 | |
| 22 | 土 | | | |
| 23 | 日 | | | |
| 24 | 月 | | がんサーボード | |
| 25 | 火 | 衛生委員会、水病教職員研修会 | クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 | |
| 26 | 水 | 水病データ管理者会議・診療録管理委員会 | 糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス 保険診療委員会 | 教職員定期健康診断(~6/28) |
| 27 | 木 | | 管理診療委員会 | |
| 28 | 金 | | バスキュラーボードカンファレンス | 千葉歯科医療センター医療安全研修会 |
| 29 | 土 | | | |
| 30 | 日 | | | |

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|---|--|--|
| 1 | 月 | | 薬事委員会 市川リレーションシップカンファレンス | 臨床研修管理小部会 医療連携委員会 |
| 2 | 火 | 水病感染予防対策チーム委員会 | 緩和ケア委員会 | リスクマネージャー部会 ICT部会 |
| 3 | 水 | 水病薬事委員会 | がんセンターボードセミナー 臨床検査運営委員会 | |
| 4 | 木 | 水病研修歯科医募集説明会(学内) | プログラム委員会 | 診療録整備指導委員会 |
| 5 | 金 | 短大水道橋病院臨床実習小委員会 | 給食運営会議 こどもサポートチーム運営会議 がん薬物療法小委員会 | |
| 6 | 土 | 水病研修歯科医募集説明会(学外) | | |
| 7 | 日 | | | |
| 8 | 月 | | | 千葉歯科医療センター医局長会 |
| 9 | 火 | 口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会 | 緩和ケア委員会 図書委員会 | |
| 10 | 水 | 基礎教授連絡会、大学院運営委員会 大学院研究科委員会、第4回図書館事務連絡会 水病リスクマネジメント部会 | 救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会・利益相反委員会 診療材料検討委員会 ICU運営委員会 | |
| 11 | 木 | 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 | 患者サービス向上委員会 感染制御委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会 地域連携バス検討小委員会 | |
| 12 | 金 | 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会 | | |
| 13 | 土 | 短大オープンキャンパス・入試説明会 | | |
| 14 | 日 | | | |
| 15 | 月 | 海の日 | | |
| 16 | 火 | | 模擬個別指導 緩和ケア委員会 | |
| 17 | 水 | 振替授業(月曜日分) | TDC きゃんサークル 褥瘡対策委員会 輸血療法委員会 | |
| 18 | 木 | 第2回図書委員会、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 水病第1回地域医療連携委員会 | 第1回医療安全・感染予防対策講演会 動画配信(~8/18) 模擬個別指導 内視鏡室委員会 | |
| 19 | 金 | 第176回倫理審査委員会・第117回利益相反委員会 | NSTカンファレンス | |
| 20 | 土 | | | |
| 21 | 日 | | | |
| 22 | 月 | | がんセンターボード(メール開催) 院内がん登録小委員会(メール開催) 医療安全管理委員会 | 千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会 |
| 23 | 火 | 1~4年生夏季休暇開始(~9/1)、衛生委員会 水病教職員研修会 | クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会 外来運営委員会 | 臨床研修歯科医教育セミナー |
| 24 | 水 | 水病データ管理者会議・診療録管理委員会 | 糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス 保険診療委員会・DPC症例検討委員会 | 業務連絡会 |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 25 | 木 | TDC ビル協議会 | 説明と同意の質向上委員会 部長会、管理診療委員会 バスキュラーボードカンファレンス |
| 26 | 金 | | リスクマネージャー会議 業務改善委員会 |
| 27 | 土 | Tokyo Dental College Research Project Asian Rising Stars Symposium 2024 | |
| 28 | 日 | | |
| 29 | 月 | | 模擬個別指導結果報告会 |
| 30 | 火 | | 緩和ケア委員会 |
| 31 | 水 | | |

2024年8月

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|------------------------|-------------------------|------------|
| 1 | 木 | | 感染制御委員会 説明と同意の質向上委員会 | |
| 2 | 金 | 短大水道橋病院臨床実習小委員会 | | |
| 3 | 土 | | | |
| 4 | 日 | | | |
| 5 | 月 | | | |
| 6 | 火 | | 緩和ケア委員会 | |
| 7 | 水 | | 臨床検査運営委員会 | |
| 8 | 木 | 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 | 患者サービス向上委員会 | |
| 9 | 金 | 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会 | | |
| 10 | 土 | 短大オープンキャンパス・入試説明会 | | |
| 11 | 日 | 山の日 | | |
| 12 | 月 | 山の日振替休日 | | |
| 13 | 火 | 水病給食委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 14 | 水 | 水病リスクマネジメント部会 | CPC | |
| 15 | 木 | | | |
| 16 | 金 | | NST カンファレンス | |
| 17 | 土 | | | |
| 18 | 日 | | | |
| 19 | 月 | | 医療安全管理委員会 | |
| 20 | 火 | 水病褥瘡対策委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 21 | 水 | | | |
| 22 | 木 | TDC ビル協議会 | | |
| 23 | 金 | | | |
| 24 | 土 | | | |
| 25 | 日 | | | |
| 26 | 月 | | | |
| 27 | 火 | | 緩和ケア委員会 | |
| 28 | 水 | | 糖尿病教室 糖尿病チームカンファレンス | |
| 29 | 木 | 6年生第2回総合学力試験(~8/30) | 献血 | |
| 30 | 金 | | | |
| 31 | 土 | | | |

■ 市川総合病院外科松井淳一教授監修のサイドワゴン発売開始

市川総合病院外科の松井淳一教授監修のサイドワゴンが、センシンメディカル株式会社より2024年6月に販売開始された。本ワゴンは、「穏やかに寄り添う心地よい部屋」「リラックスできる空間」「高度なサービスを受けられる安心感」を基本コンセプトとして設計・デザインされて2023年9月開設した市川総合病院薬物療法室の18ある患者ブースの備品としてサイドワゴンを検討していた松井教授が立案、企画、監修して製作したものである。

松井教授と薬物療法室スタッフは、新しい薬物療法室の開設に向けて、いくつものがんセンターや大学病院などの薬物療法室を見学した。多くの施設の患者ブースには入院病室の床頭台が設置されていることが多く、あるいは簡略な荷物カゴだけという施設もあった。そこで、松井教授らはベッドサイドで看護師スタッフの輸液管理業務にも使用できて、輸液開始後は治療を受ける患者さんも利用できるワゴンを作るアイデアがひらめいたという。そのアイデアを「オリジナルのサイドワゴンとして特注製作して実現したい」として企画案をセンシンメディカル株式会社に相談したところ、受けてもらえることになった。

2023年3月の発案から同社担当者とは何回も検討を重ねて、看護師スタッフの市野由香副部長、名執理絵師長、高橋亜紀子がん化学療法看護認定看護師らの意見を聞きながら機能面について考案してアイデアをまとめていった。そして4月17日（水）、最初の設計図が完成した。

このオリジナルワゴンは、

- ・患者治療ブースの広さと内寸に合わせてリクライニング

チェアの左右どちらにも移動できること

- ・天板は輸液トレーが置けるサイズにすること
 - ・ワゴンの高さは看護師スタッフの業務に使用しやすい高さにすること
 - ・中段は患者がスマートフォンやペットボトル、タブレットや書籍などを置いて利用できるテーブルとして、高さをチェアの肘掛に合わせること
 - ・下段は患者のバッグやコートなどの物置にすること
- などを考えて、サイズ、構造を決めてキャスター付き3段ワゴンにすることとした。

天板と中段テーブルは、治療を受ける患者さんが「軽やかさ、清々しさを感じて、前向きな気持ちで過ごしていただける」ように配慮された空間に合わせた材質と色が採用された。結局、設計図は14回改変修正が行われて、設計最終版ができたのは6月13日（木）、製品が完成したのは新しい薬物療法室開設直前の8月28日（水）であった。

このサイドワゴンが、薬物療法室のブースで患者さんにも看護師スタッフにも使いやすいと好評であることから、製作会社から製品化と販売の申し出があり、患者さんの隣に役に立つワゴンになって欲しいと願いを込めて商品名を「オトナリクン」と名付けて発売となった。

なお、ワゴンの天板側面には品番WAJ-TDCIGHが刻印されており、これはWagon Assembled by Junichi Matsui-Tokyo Dental College Ichikawa General Hospitalの略である。



▲松井教授が立案・監修したサイドワゴン



▲Wagon Assembled by Junichi Matsui - Tokyo Dental College Ichikawa General Hospitalを略した品番の刻印



▲市川総合病院薬物療法室の患者ブースに実際に設置されているサイドワゴン



松井教授監修のサイドワゴンの詳細はセンシンメディカル株式会社 HPにて紹介されています。

右記 QR コード先の「センシンメディカル ステンレス製品カタログ」8～9ページをご参照ください。

(2024年9月10日現在)



リレー連載

あのころ私も若かった！

大学を卒業して、あっという間に40年が過ぎてしまいました。今回、学生時代を振り返る機会をいただき、昔の写真を探しつつあの頃の事を思い出してみました。

昭和53年4月初旬、さいかち坂校舎のそばにある某有名予備校に別れを告げ、鉄ちゃんたちには羨ましいであろう寝台特急(ブルートレイン)東京駅16時30分発「さくら」に乗って、西の最果ての地・長崎を目指しました。そして翌朝11時51分に長崎駅に到着し、まったく縁もゆかりもない観光地での新生活が始まりました。

新天地での私の最初の行動は浦上天主堂の隣にある医学部グラウンドに行き「サッカー部に入部したい」と伝えたことで、入学式より前に先輩たちとボールを蹴り始め、体育会系部活の中でも悪名高き医学部サッカー部の一員となりました。

すぐに模範的なサッカー部員となった私は、先輩たちから伝授された医学生のあるべき姿にすぐに順応し、午前中は寝坊、昼頃から雀荘、夕方からサッカーの練習、その後は居酒屋で焼酎といった、今の医学生には想像もつかないような生活を経験しました。

しかし、部活では先輩・後輩の上下関係は厳しく、卒業後は体育会系の雰囲気のない診療科に入局しようと思いい科を



今号の「私」は
西田 次郎 市川総合病院
病院長

東京都杉並区出身

昭和59年長崎大学医学部卒
サッカー部

選びました。

夏休みの思い出といえば、西日本医科学生総合体育大会(西医体)です。大会前の炎天下での合宿生活は辛いものでしたが、今では本当に懐かしい思い出です。

当時の母校のサッカー部は弱体クラブで、1回戦あるいは2回戦敗退が当たり前。弱体チームの中でも下手くそミッド・フィールダーだった私は、停まっているボールを蹴る(フリーキック)だけが得意な使えない選手だったので、試合そのものよりも敗戦後の旅行が楽しみでした。

主管校が徳島大学だった時には、部活の仲間たち(当時はとても優秀とはいえませんでした)が、なぜか母校の教授になっています)と車を借りて約1週間、四国一周旅行をしました。四国の秘境・祖谷のかずら橋から始まり、龍河洞、足摺岬、道後温泉、そして最後に高松での讃岐うどんと「地元OLとの合コン」で終わりましたが、その時の経験は今でも鮮やかに蘇る青春そのものでした。

サッカー 旅行大好き！ 青春 STORY JIRO ちゃんの



Jリーガーを目指して！
(当時はありませんでしたが…)



同期の仲良しとの練習後の1枚



サッカー部(≒旅行同好会)の
皆で「龍河洞」入口で撮影



サッカー部のメンバーと



この車で行った四国一周旅行は本っ当に楽しかった



広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

上田 貴之

岡田 舞

河合 宏明

世木田 晋

国分 栄仁

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

前田 孝人

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

編集後記

パリの街の選手たちの人間ドラマに心を揺さぶられ、胸を熱くしたオリンピックの夏。大学では、日常から解き放たれた学生たちの思いが、強い夏の日差しの中、オールデンタルのフィールドに弾けました。硬式庭球部の優勝、剣道部の二連覇、サッカー部、バドミントン部、ボーリング部の準優勝。各クラブの活躍が押し上げた総合3位。ひとり一人の胸の中にしっかりと刻まれた2024年の夏の輝き。

そして、かつて125期生として共に学んだ仲間が、Stade de France競技場の緑のフィールドで、大観衆のなか、銀メダルを獲得した。鬼谷慶子さん。パラリンピック陸上女子円盤投げで15m78cmのアジア新記録。自分でも信じられない投擲で、円盤がきれいな弧を描きながら自己記録を楽々と超えていく。数えきれないほどの困難の中、日々のたゆまぬ努力の先で、「どう転んだって上手くいく」と自分に言い聞かせて本番の戦いに挑み、笑顔で掴んだ銀メダル。何という心の強さ。大切なパートナーと共に、二人で信じて成し遂げた大きな成果。周りからの応援とサポートに感謝し続ける彼女が、今は、ほかの誰かに勇気を与え、背中を押していく。夢を諦めるな。大丈夫だよ、自分自身を受け入れることができる明るい未来は必ずある、と。

